

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

治療後半期における「現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケア」の実装に関する研究  
（がん治療後期の意思決定支援に資する研究）

研究分担者 森田 達也 聖隷三方原病院 緩和支援治療科 副院長・部長  
研究協力者 森 雅紀 聖隷三方原病院 緩和支援治療科 医長

### 研究要旨

本研究班では、「現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケアの実装の推進に関する研究」の一環として、がん治療後期の意思決定支援のためのプログラム策定に資する研究を行う。研究内容としては、Unfinished business概念を中心にすえて、がん患者のunfinished business（いわゆるこころ残り）を最小化するためのプログラムを開発することを目的とする。

本年度は、Unfinished business概念に関する系統的レビューを行い、がん患者の遺族500名を対象としてUnfinished businessがどの程度の頻度に見られるか、どのような医療者の介入と関連しているかを探索した。

系統的レビューでは、①UBの定義、②患者・遺族におけるUBの頻度、③UBのアウトカム評価に関する評価尺度、④UBの関連概念、⑤UB, UB-related distress、それらの要因やアウトカムの概念枠組みについて検討した。遺族調査では、遺族511名に調査用紙を発送し、386名から回答を得た。Unfinished businessの頻度は25～30%程度であると見積もられた。

遺族調査と系統的レビューの結果から、Unfinished businessを軽減するプログラムの開発を来年度に行い、実装する。

### A. 研究目的

本研究班では、「現場や地域の実情に即したがん治療と並行する緩和ケアの実装の推進に関する研究」の一環として、がん治療後期の意思決定支援のためのプログラム策定に資する研究を行う。

### B. 研究方法

#### I 系統的レビュー

Unfinished businessを検索語として系統的レビューを行い、①UBの定義、②患者・遺族に

におけるUBの頻度、③UBのアウトカム評価に関する評価尺度、④UBの関連概念、⑤UB, UB-related distress、それらの要因やアウトカムの概念枠組みについてまとめる。

#### II 遺族調査

##### 1. 研究デザイン

郵送による質問紙調査

##### 2. 調査対象

聖隷三方原病院において死亡したがん患者の遺族500名。

### 3. 調査票の作成

Unfinished businessの評価尺度、研究者の合意で作成した有用であった医療者の関わり、患者・家族の体験を調査した。

#### (倫理面への配慮)

本調査研究は、聖隷三方原病院の倫理委員会により「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき審議に附され、承認を得た上で実施された。

## C. 研究結果

### I 系統的レビュー

#### 1 UBの定義

Unfinished business (UB)は主に遺族の悲嘆において研究されてきた概念で、以下の定義があった。

「完成されなかった、表現されなかった、解決されなかった故人との関係性の問題

(incomplete, unexpressed, or unresolved relationship issues with the deceased) 」

(Holland 2014; Klingspon 2015) ; 「亡くなった愛する人との関係を、不完全な、表現されていない、または解決されていない、閉じられていないと評価することを含む認知プロセス

(cognitive process that involves appraising one's relationship with a deceased loved one as incomplete, unexpressed, or unresolved, lacking closure) 」 (Holland JM, et al. J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci 2014;69:40-47)

#### 2 患者・遺族におけるUBの頻度

遺族においてUBの頻度は比較的高く

(Yamashita 2017: 26%, Klingspon 2015: 43%)、多くの遺族がUBに伴う中等度以上のつらさを抱えていた (NRS5以上が73.8%)。進行がん患者のUBも頻度が高く (Masterson 2018, 72%)、UBに伴うつらさも強かった (平均7/10点)。

UB自体も遺族の悲嘆等 (Yamashita 2017, Klingspon 2015) や患者の不安・実存的苦悩 (Masterson 2018) に関連しているが、UBに伴うつらさはそれ以上にこれらのアウトカムに関連していた (Klingspon 2014; Masterson 2018)。また、これまでUBに関連する要因 (患者・家族・医療者要因) が複数挙げられていた (Yamashita 2017)。なお、患者では、UBが達成困難であることを認識した時に辛さが生じていた (Masterson 2018)。

このほか、UBのアウトカム評価に関する評価尺度の一覧を作成し、関連概念を整理した。

### II 遺族調査

遺族511名に調査用紙を発送し、386名から回答を得た。Unfinished businessの頻度は25～30%程度であると見積もられた。

## D. 考察

Unfinished business (UB)は、主に遺族の悲嘆において研究されてきた概念で、「解決されなかった故人との関係性の問題」とされてきたが、近年では、いわゆるこころ残りとして概念化され直している。我が国における頻度は25～30%程度であると見積もられる。

## E. 結論

Unfinished businessを改善させる方法について、分析と研究を継続し、プログラムの開発につなげる予定である。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

- 1) 内藤明美, 采野優, **森田達也**, 小山田隼佑, 野里洵子, 堀江良樹, 小島康幸, 陶山久司, 森雅紀, 中島貴子, 清水千佳子, 恒藤暁,

武藤学. がん診断時からの緩和ケアを提供するための患者のアンメットニードに関する研究. 緩和・支持・心のケア 学術合同学会2020 2020年8月9日10日

- 2) 采野優, 堀江良樹, **森田達也**, 内藤明美, 小山田隼佑, 陶山久司, 小島康幸, 野里洵子, 森雅紀, 中島貴子, 清水千佳子, 恒藤暁, 武藤学「がんと診断されたときからの緩和ケア」の推進に関わる厚生労働行政への提言の策定. 緩和・支持・心のケア 学術合同学会2020 2020年8月9日10日
- 3) 陶山久司, 砂田寛司, 采野優, 堀江良樹, 内藤明美, 小山田隼佑, 野里洵子, 小島康幸, 森雅紀, 中島貴子, 清水千佳子, **森田達也**, 恒藤暁, 武藤学. 「がんと診断された時からの緩和ケア」提供のための医療従事者が認識する課題に関する探索的調査. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 P29-4. On-demand Streaming (2021年3月1日~31日)
- 4) 沖崎 歩, 松本 禎久, 梅村 茂樹, 小林直子, 藤澤 大介, **森田 達也**, 山口 拓洋, 森 雅紀, 木下 寛也, 内富 庸介. 進行がん患者に対するスクリーニングを組み合わせた看護師主導による治療早期からの専門的緩和ケア介入プログラムの臨床的有用性を検証する無作為化比較試験. ポスター. 緩和・支持・心のケア合同学術大会2020 (オンライン) 2020年8月9日-10日.

## G. 知的財産の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし